

常葉大学・短期大学部 自己点検・評価報告書

令和 5 年度

常葉大学・短期大学部 自己点検・評価委員会

目 次

I 総評	3
II 第1段階評価の項目	4
III 各基準における自己点検・評価のまとめ	
【大学、大学院】	
・基準4 教育課程・学習成果	4
・基準5 学生の受け入れ	6
・事業計画（教育活動計画）	
高大連携の推進と学生募集の強化	7
【短大】	
・基準1 建学の精神と教育効果	8
・基準5 学生の受け入れ	8
・事業計画（教育活動計画）	
高大連携の推進と学生募集の強化	9
IV 外部評価委員会による評価の概要	10
V 自己点検・評価委員会名簿	11

I 総評

大学・大学院においては、平成30年度に「常葉大学自己点検・評価実施方針」を改正し、現在のような4段階の点検・評価を規定した。第1段階は学部及び研究科の自己点検・評価、第2段階は自己点検・評価委員会による第1段階の自己点検・評価に対する適正さの点検・評価、第3段階は自己点検・評価委員会による大学全体の観点からの点検・評価、第4段階は外部評価委員会による点検・評価である。翌年の令和元年度から自己点検・評価を始め、本年度で5回目を迎える。現在では、未達成の項目に積極的に取り組み、組織的に実施するP D C Aサイクルを活かすことで、未達成の項目が少なくなりつつあることが本年度の点検・評価で明らかになった。

本年度は、「常葉大学自己点検・評価実施方針」に定めた全10項目の自己点検・評価の基準のうち、昨年度の自己点検・評価で達成度が十分でなかった「基準4 教育課程・学習成果」、「基準5 学生の受け入れ」に加え、昨年度から新たに設定した項目である事業報告書（教育活動計画）にある「高大連携の推進と学生募集の強化」の計3項目について自己点検・評価を行った。その結果、該当の学部及び研究科が行った第1段階の自己点検・評価では大きく改善が見られ、第2段階においても概ね「評価は適切である」と評価され、着実に課題解決に取り組んでいることが確認された。一方で、一部「適切でない」と評価された項目もあり、その理由として、根拠資料の不足や整合性に関する指摘があった。これらの点については、今後も継続して検討・改善していく必要がある。上記3項目の基準における点検項目数は、12項目であった。そのうち、学部における評価の及第点の割合は96%、研究科における評価の及第点の割合は86%となっており、第2段階の点検・評価においては、学部と研究科ともに89%がその評価は適正とされている。このことからも、改善及び適正な自己点検・評価に努めていたと判断できる。

第4段階における3名の外部評価委員からの点検・評価についても、「自己点検・評価は概ね適切に行われている」との評価をいただいた。引き続き、課題解決に努め、継続的にP D C Aサイクルを機能させた自己点検・評価を実施し、恒常的な教育研究及び業務の改善を図っていく。

短期大学部においては、大学・短期大学基準協会の点検評価項目に加えて、本学の教育研究業務に必要な項目を組み合わせた令和3年1月制定の「常葉大学短期大学部 自己点検・評価実施方針」をもとに実施した。大学・大学院と同様に、第1段階では各科の自己点検・評価、第2段階は自己点検・評価委員会による第1段階の自己点検・評価に対する適正さの点検・評価、第3段階では自己点検・評価委員会による短期大学部全体の観点からの点検・評価、第4段階は外部評価委員会による点検・評価を行っている。

「常葉大学短期大学部自己点検・評価実施方針」に定めた項目の自己点検・評価の基準のうち、昨年度の自己点検・評価で達成度が不十分であった「基準1 建学の精神と教育効果」、「基準5 学生の受け入れ」、大学・大学院同様、昨年度から新たに設定した項目である事業計画書（教育活動計画）にある「高大連携の推進と学生募集の強化」の計3項目について、本年度、自己点検・評価を行った。その結果、該当の科が行った第1段階の自己点検・評価では「適切である」との評価が多く、第2段階の点検・評価でも概ね「評価は適切である」と評価された。一方で、「適切でない」と評価された項目について、各科での検討を含めて、全学的な観点からの対応を進めることとした。

第4段階における3名の外部評価委員からの点検・評価についても、大学・大学院と同様に「自己点検・評価は概ね適切に行われている」との評価をいただいた。引き続き、各科の教育研究の恒常的な改善を図るために、より特色ある教育活動を推進していく。

II 第1段階評価の項目

【大学、大学院】

- | | |
|--------------|-------------------|
| 基準4 | 「教育課程・学習成果」 |
| 基準5 | 「学生の受け入れ」 |
| 事業計画（教育活動計画） | 「高大連携の推進と学生募集の強化」 |

【短大】

- | | |
|--------------|-------------------|
| 基準1 | 「建学の精神と教育効果」 |
| 基準5 | 「学生の受け入れ」 |
| 事業計画（教育活動計画） | 「高大連携の推進と学生募集の強化」 |

III 各基準における自己点検・評価のまとめ

【大学、大学院】

基準4 教育課程・学習成果

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

(2) 各学部、学科又は課程では、学習成果を把握及び評価するために、次の方法を用いているか。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| (あ) アセスメント・テスト | (い) ループリックを活用した測定 |
| (う) 学習成果の測定を目的とした学生調査 | (え) 卒業生、就職先への意見聴取 |

学部：学部の特性に応じた様々な方法によって、各学部は学習成果を把握及び評価している。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は10学部すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、その結果「(あ) (い) (う) (え) のすべてを用いている」と評価した学部は1学部、「(あ) (い) (う) (え) のうち3つないし2つは用いている」と評価した学部が7学部、「(あ) (い) (う) (え) のうち1つは用いている」と評価した学部が1学部、「(あ) (い) (う) (え) のどれも用いていない」と評価した学部は1学部であった。本年度も、10学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「(あ) (い) (う) (え) のすべてを用いている」と評価した学部はなく、「(あ) (い) (う) (え) のうち3つないし2つは用いている」と評価した学部が8学部、「(あ) (い) (う) (え) のうち1つは用いている」とした学部が1学部、「(あ) (い) (う) (え) のどれも用いていない」とした学部が昨年度同様に1学部であった。第2段階評価では、3学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては「どれも用いていない」と評価した学部があることに加えて、根拠資料との整合性についての指摘もあることから、次年度も継続的に点検・評価することが必要である。

研究科：学習成果の測定を目的としたループリックや学生調査など、複数の評価方法で学習成果の把握及び評価を行っている。各研究科の点検・評価の状況は次のとおりである。本年度も昨年度同様に、4研究科すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「(あ) (い) (う) (え) のすべてを用いている」と評価した研究科はなく、「(あ) (い) (う) (え) のうち3つないし2つは用いている」と評価した研究科が2研究科、「(あ) (い) (う) (え) のうち1つは用いている」とした研究科が2研究科、「(あ) (い) (う) (え) のどれも用いていない」とした研究科はなかった。昨年度同様の評価結果であったが、第2段階評価では昨年度から改善しており、1研究科を除き「適切である」と評価された。研究科の特性に応じつつ、学習成果の測定を目的としたループリックや学生調査など、複数の評価方法で学習成果の把握及び評価を行っているが、まだ十分とはいえない。研

究科では、複数の方法を用いて評価することが推奨されているため、今後の検討課題とする。

●今後の課題

学位授与方針に明示した学生の学習成果は学部・研究科の特性に応じて、概ね適切に実施している。ただし、第2段階評価において、一部の学部は「適切ではない」と評価された。この学部については、実施の根拠との適切な整合性の確認を講じるよう改善への取り組みが必要である。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

(2) 各学部、学科又は課程では、学習成果の測定結果の適切な活用を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学部：学部の特性に応じつつ、授業アンケート結果及びFD・SD研修会等を通じて、DP達成度評価との関係を分析し、学習成果の測定結果の活用を行っている。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は10学部すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」と評価した学部は6学部、「測定効果の活用、改善・向上へ一方のみ行っている」と評価した学部が3学部、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」とした学部が1学部であった。本年度も、10学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」としたものが8学部、「測定効果の活用、改善・向上へ一方のみ行っている」と評価した学部が2学部、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」とした学部はなかった。昨年度と比較して、「測定効果の活用、改善・向上へのいずれも行っていない」と評価した学部がなくなった。この結果にみられるとおり、この項目においては改善がみられた。一方で、第2段階評価において、より具体的な記述を求められている学部もあることから、根拠資料に合わせた適切な評価が求められる。

研究科：授業改善に基づくFD研修会の実施や授業アンケート結果の教員間での共有などを行い、改善・向上に向けた取り組みを行っている。各研究科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度の自己点検・評価において、4研究科すべてで実施した結果、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」と評価した研究科が3研究科、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」とした研究科が1研究科であった。本年度も、4研究科すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」とした研究科が3研究科、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」とした研究科が1研究科であった。昨年度と同様の評価結果であり、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」と評価した1研究科については、引き続き、改善に向けた取り組みを検討し、推進する。

●今後の課題

教育課程及びその内容、方法の適切性についての定期的な点検・評価及び改善・向上への取り組みについて、概ね適切に実施されている。学部及び研究科において、引き続き具体的かつ継続的に推進することが必要である。

基準5 学生の受け入れ

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

(2) 各学部、学科又は課程では、下記（あ）及び（い）の内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定をしているか。

（あ） 入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像

（い） 入学希望者に求める水準等の判定方法

学部：学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針をホームページ・大学案内・入試ガイド等により積極的に公表している。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は10学部すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「（あ）（い）のすべてを用いている」と評価した学部は7学部、「（あ）（い）のうち1つは用いている」と評価した学部が2学部、「（あ）（い）のどれも用いていない」と評価した学部が1学部であった。本年度も10学部すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「（あ）（い）のすべてを用いている」と評価した学部は6学部（昨年度から1学部が減少した事由：（あ）（い）ともに適切に設定しており、第二段階評価でも適切との昨年度の評価だが、本年度学部としては、能力の直接評価の改善・検討の必要性があると判断したため）、「（あ）（い）のうち1つは用いている」と評価したものが1学部、「（あ）（い）のどれも用いていない」と評価した学部が1学部であった。昨年度と同様に、「（あ）（い）のどれも用いていない」と評価した学部が1学部のままであった。第2段階評価では、1つの学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては、改善に取り組む必要がみられた。

研究科：学部同様に、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針をホームページ・大学案内・入試ガイド等により積極的に公表している。各研究科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は4研究科すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施した結果、「（あ）（い）のすべてを用いている」と評価した研究科は4研究科すべてであった。本年度も4研究科すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「（あ）（い）のすべてを用いている」と評価した研究科が3研究科、「（あ）（い）のうち1つは用いている」と評価した研究科はなく、「（あ）（い）のどれも用いていない」と評価した研究科が1研究科であった（昨年度から1研究科が減少した事由：大学院受験時の出願基準以外での学士課程における単位取得の適切性について、検討の予定があるため）。「（あ）（い）のどれも用いていない」と本年度評価した該当研究科については、第2段階評価での策定の検討という指摘事項のように、改善に向けての検討を推奨していく。

●今後の課題

学部・研究科ともに、学生の受け入れ方針について、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や入学希望者に求める水準等の判定方法を適切に公表している。一部の学部・研究科では、設定できていない箇所もあるため、検討及び策定を推進する。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

(1) 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理をしている。

学部：学部入試委員会において在籍学生数の適正な管理に努めている。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は10学部すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「行っ

ている」と評価した学部は9学部、「行っていない」と評価した学部が1学部であった。本年度も昨年度同様に「行っている」と評価した学部が9学部、「行っていない」と評価した学部が1学部であった。2段階評価では、1つの学部を除き「適切である」と評価された。この結果にみられるとおり、この項目においては引き続き、適正な管理方法及び改善への取り組み必要が確認できた。

研究科：各研究科の入試説明会、刊行物及びホームページなどを通じて、収容定員に基づく積極的な公表・募集・管理を推進している。各研究科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は4研究科すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施した結果、「行っている」と評価した研究科は4研究科すべてであった。本年度も、同様であった。ただし、第2段階評価では、1つの研究科で根拠資料との整合性において「適切ではない」と評価された。この結果にみられるとおり、すべての研究科において、適切な定員を設定し、学生の受け入れや在籍学生数を収容定員に基づいて継続的に管理しているが、第2段階評価における指摘事項については改善を図っていく必要がある。

●今後の課題

学部・研究科ともに、入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理については概ね適切であるものの、一部の学部及び研究科において課題がある。引き続き、全学的に把握・管理するとともに、組織的に取り組む。

事業計画（教育活動計画） 高大連携の推進と学生募集の強化

附属高校総合能力入試の実施及び高大接続教育の推進

① 附属高校入試の実施を通して、高大接続教育を推進する。

学部：オープンキャンパスにおいて「学部・学科の学びを知る」機会の設定や本学の附属高等学校3校との懇談会の実施など、附属高校総合能力入試の適正な実施や積極的な高大接続教育の推進に努めている。各学部の点検・評価の状況として、昨年度は10学部すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「推進できた」と評価したものが9学部、「推進できなかった」と評価した学部が1学部であった。本年度は、「推進できた」と評価した学部が10学部になり、改善がみられた。第2段階評価においても、すべての学部において「適切である」と評価された。

●今後の課題

学部学科の特性を活かした附属高校総合能力入試の実施に向けて、定期的な見直しを図るとともに、引き続き附属高等学校3校との高大接続教育を継続・推進する。

② 18歳人口の減少に対応した学生確保対策として、特色ある学部教育をより一層推進する。

学部：学部の特性をより活かしたカリキュラムの策定へ向けて、ワーキンググループを設置し、時代を見据えたカリキュラムの編成・検討を行っている。各学部の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は10学部すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「行った」と評価した学部は10学部すべてであった。本年度も、同様に「行った」と評価した学部が10学部すべてであり、継続して実施されている。また、第2段階評価においても、すべての学部において「適切である」と評価された。

研究科：研究科によっては、研究科独自のFD研修会において、人口減少に伴う学生募集と授業改善をテーマに、特色ある研究科教育の検討を行っている。各研究科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は4研究科すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「行った」と評価した研究科は2研究科、「行っていない」と評価した研究科が2研究科であった。本年度も、同様の評価結果であり、未実施の研究科においては、改善の取り組みを推奨していく。第2段階評価においても、1研究科が「適切でない」と評価された。

●今後の課題

学部においては、18歳人口の減少に対応した学生確保対策として、より特色ある学部教育の検討・推進をしているため、更に全学的な観点から積極的に検討し、改善策を構築していく必要がある。研究科においては、一部の研究科で特色ある研究科教育の検討が未実施であるため、学生確保の側面からも積極的かつ発展的な検討を推奨していく。

【短大】

基準1 建学の精神と教育効果

B-2 学習成果を定めている。

(3) 学習成果を内外に表明している。

科：本年度の自己点検・評価に盛り込んだ本項目について、3科すべてにおいて自己点検・評価を実施した結果は次のとおりである。「表明している（問題なし）」と評価した科が2科、「表明が不十分である（やや問題あり）」と評価した科が1科であった。第2段階評価においては、1科が「適切でない」と評価された。

●今後の課題

学習成果の公表は教育機関としての質を保証するためにも必要不可欠であり、「表明が不十分である（やや問題あり）」と評価した科は、学習成果の情報公開を積極的かつ最新に更新するなど改善を図る必要がある。

(4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。

科：本年度の自己点検・評価に盛り込んだ本項目について、3科すべてにおいて自己点検・評価を実施した結果は次のとおりである。「点検している（問題なし）」と評価した科は2科、「点検していない（大いに問題あり）」と評価した科が1科であった。「点検していない（大いに問題あり）」と評価した科においては、定期的に点検を実施していないことが事由である。第2段階評価においては、2科が「適切でない」と評価された。

●今後の課題

定期的な点検の実施は、P D C Aサイクルの観点からも不可欠である。実施時期・実施方法等を踏まえて、各科の実情に合わせた学習成果の定期的な点検を推進する。

基準5 学生の受け入れ

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

(1) 学科・専攻科の入学者数は、入学定員に対して適正な数となっているか。

科：各科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は3科すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「適正な数である（問題なし）」と評価した科は2科、「適正な数ではない（やや問題あり）」と評価した科が1科であった。「適正な数ではない（やや問題あり）」と評価した1科については、入学定員充足率が100%未満であることが事由である。本年度も、同様の結果であった。「適正な数ではない（やや問題あり）」と評価した1科については、入学定員充足率が100%未満であることが事由である。第2段階評価においては、すべての科において「適切である」と評価された。

●今後の課題

3科ともに適正かつ継続的な入学者数の維持が求められる。引き続き、各科における多様な学びの提供や特色ある学生募集活動等を通じて、定員確保に向けた取り組みを一層推進する。

(2)学科・専攻科の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持しているか。

科：各科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は3科すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「維持している（問題なし）」と評価した科は2科、「維持できていない（やや問題あり）」と評価した科が1科であった。「維持できていない（やや問題あり）」と評価した1科については、収容定員充足率が100%未満であることが事由である。本年度も3科すべてにおいて自己点検・評価を行った結果、「維持できていない（やや問題あり）」と評価した科が3科すべてであった。「維持できていない（やや問題あり）」と評価した事由は、3科すべてにおいて収容定員充足率が100%未満によるものである。第2段階評価においては、すべての科において「適切である」と評価された。

●今後の課題

入学定員同様に収容定員についても、3科ともに適正かつ継続的な入学者数の維持が求められる。全学的な把握・管理を含めて、改善・改革に向けて、組織的に取り組む必要がある。

(4)収容定員に対して、在籍学生数が充足していない場合、どのような対策が検討・実施されているか。

科：収容定員の充足に向けて、各科の特性を活かした高校生向けの企画の実施や入試における科目の見直しを実施している。各科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は3科すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「検討・実施している（問題なし）」と評価した科は3科すべてであった。本年度も、同様の結果であった。第2段階評価においては、すべての科において「適切である」と評価された。

●今後の課題

各科の特性を活かした対策の実施・見直しをしているが、引き続き、体系的かつ効果的な対策の検討・実施を推進する。

事業計画（教育活動計画） 高大連携の推進と学生募集の強化

附属高校総合能力入試の実施及び高大接続教育の推進

①附属高校入試の実施を通して、高大接続教育を推進する。

科：年に複数回のオープンキャンパスの開催や本学の附属高等学校3校との懇談会の実施など、附属高校入試の適正な実施や積極的な高大接続教育の推進に努めている。各科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は3科すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「推進できた

（問題なし」と評価した科は3科すべてであった。本年度も、同様の結果であった。第2段階評価においても、すべての科において「適切である」と評価された。

●今後の課題

高大接続教育の効果を適切に把握し、入学者確保に向けた改善・充実につながるように、定期的な見直しを図り、引き続き附属高等学校3校との更なる連携・協力体制の強化に努める。

② 18歳人口の減少に対応した学生確保対策として、特色ある学部（科）教育をより一層推進する。

科：年々参加者数が増加している附属高校との連携講座の内容の充実化を図る等の取り組みを推進している。各科の点検・評価の状況は次のとおりである。昨年度は3科すべてにおいて本項目の自己点検・評価を実施し、「推進できた（問題なし）」と評価した科は3科すべてであった。本年度も、同様の結果であった。第2段階評価においても、すべての科において「適切である」と評価された。

●今後の課題

各科においては、18歳人口の減少に対応した学生確保対策として、より特色ある教育の検討・推進を図るために、継続的に見直しをしているが、更に全学的な観点からも検討及び推進を図る必要がある。

IV 外部評価委員会による評価の概要

外部評価委員

No.	氏名	所属等
1	松浦 高之	静岡市商工会議所 常務理事
2	岡山 卓史	静岡市役所 総合政策局長
3	町塚 祐輔	大伸木工株式会社 代表取締役社長

外部評価委員会による評価は、大学・短大内で行われた自己点検・評価（第1段階評価及び第2段階評価）の結果を受け、その自己点検・評価が適切に行われているか否かを評価するものである。本年度の結果は、以下のとおりである。

【大学、大学院】

（1）基準4 教育課程・学習成果について

自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

（2）基準5 学生の受け入れについて

自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

（3）事業計画（教育活動計画） 高大連携の推進と学生募集の強化について

自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

【短大】

（1）基準1 建学の精神と教育効果について

自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

（2）基準5 学生の受け入れについて

自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

(3) 事業計画（教育活動計画） 高大連携の推進と学生募集の強化について
自己点検・評価は、概ね適切に行われている。

総評

大学・大学院及び短大における自己点検・評価において自ら課題を把握・抽出し、今後の対応・対策を全学的だけでなく、学部学科・研究科・科ごとに継続的に図ろうとしており、評価としては概ね適切に実施されていると認める。

V 自己点検・評価委員会名簿（学内）

「大学」

No.	氏名	役職等
1	江藤 秀一	学長
2	安藤 雅之	副学長（静岡）
3	阿部 郁男	副学長（静岡）
4	磯貝 香	副学長（浜松）
5	笛木 茂雄	教務部長
6	今村 貴幸	学生部長
7	佐藤 友紀	学長指名
8	中澤 寛元	学長指名
9	小田 寛人	短大部小委員会代表
10	大石 哲也	大学・短大本部事務局長
11	野中 蘭	キャンパス事務局長（草薙・瀬名）
12	林 啓子	法人本部事務局長

「短大」

No.	氏名	役職等
1	江藤 秀一	学長
2	小田 寛人	副学長
3	小野田 貴夫	日本語日本文学科
4	遠藤 知里	保育科
5	井上 幸子	音楽科
6	大石 哲也	大学・短大本部事務局長
7	小楠 真理	学長室課長